

| | | |
|------------------------------------|---|---|
| <p>N A L C</p> <p>あまがさき</p> | <p>令和3年1月10日発行 VOL16 第十三号 発行責任者 橋本伊三男</p> | <p>ニッポン・アクティブライフ・クラブ</p> <p>ナルク 尼崎 (ナルク119)</p> <p>事務局 尼崎市富松町 1-14-19 TEL/FAX 06-6422-8835</p> |
|------------------------------------|---|---|

コロナ武漢で流行発表1年

中国湖北省武漢市の当局が、「市内で多数の肺炎症例が見つかった」と発表したのは2019年12月31日。米ジョンズ・ホプキンス大などによると、新型コロナウイルス感染者は、南極を含む6大陸の191カ国・地域で約8200万人、死者は約180万人に上る。この状況下で2020年が終わり、2021年を迎えた。日本でも第三波の感染拡大が収まらず12月31日の新規感染者は東京で1337人・全国では4520人といずれも最多を記録した。菅義偉首相が国民に「静かな年末年始を」と呼びかけた異例の年開けを迎えることになった。このような中で届いた、ナルク本部からの新年メッセージを掲載します。

新年のご挨拶

拠点の代表、役員、会員の皆様良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年の干支は丑年です。丑年は先を急がず現下の課題を着実に進めることで将来の成功につながっていくと言われています。是非、課題を明確にし、着実に実行していく年にしたいものです。

昨年は新型コロナウイルスが、拠点の事業活動、事業収益に多大の影響を与えました。その中で、役員の皆様が拠点活動推進に多大のご尽力をいただいた事に対し心よりお礼と感謝を申し上げます。本年も引き続きコロナの影響が続くと考えられます。このような状況の中、新たな活動の展開が必要と思います。是非皆様と共に英知を集めてこの困難な時代を乗り切っていこうではありませんか。この時期、会員の皆様、一人ひとりとの関係が疎になり、退会の申し出に繋がることもあります。是非会員の方との関係をより密にし、今こそナルクの会員としての一体感を大事にしていきたいと思ひます。

一昨年、ナルクの持続的発展を目指し「ナルクビジョン」を総会で発表し、皆様とそれを共有し推進することとしました。本年は推進の3年目を迎え、エリア17推進の最重要項目として「ナルクビジョン」の具体的な実現、特に会員増強、拠点活動の充実、拠点経営の健全化に向けて取り組んでいただきたいと思います。

今後とも理念の確認、基本の遵守並びにそれぞれが抱える課題の解決に向けて果敢に取り組み、「楽しいナルク」「安心のナルク」「感動のナルク」の実現を目指そうではありませんか。

皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げます。 2021年1月吉日

NPO 法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ

会長 神野 毅 副会長 寺井正治 常務理事 田中千鶴子 事務局長 西村淳子

ナルク尼崎拠点の昨年を振り返ると、コロナ感染拡大の影響をもろに受けた。

「尼崎拠点第15回総会（6月21日予定）」の中止をはじめ、運営委員会も2月16日第4回を最後に、4月13日予定の第5回運営委員会を中止して以降一度も開催できず、時々の三役会議で対応してきた。

特養等へのボランティア活動・会員のサークル活動なども6月以降全て中止に追い込まれた。（コロナ感染に注意して、麻雀同好会は一時再開したが、その後の感染拡大で昨年内は中止中）

2020年10月開催の三役会議で当面の方針を確認

1・西宮拠点との合併について

2020年11月末で合併手続き（西宮拠点の解散と会計を含む関係書類の引き継ぎ、会員11人の移動完了）

2・新年懇親会について

毎年恒例の新年懇親会は令和3年は開催しないことを決定。



グリーンアルス伊丹(合唱ボランティア、現在休止中)事務長(ナルク会員)から届いた手紙を紹介します。

NALC 土肥様 いつもお世話になりありがとうございます。新聞受け取りました。

最近、コロナの勢いが強まってきており中々、収束とはいかず難しい舵取りを強いられています。

ご利用者様達も慣れてきている反面、単調になりがちな日々を過ごされています。スタッフのみで出来る事に知恵を絞り出し物をしたりしています。今までの生活とは、全てが異次元へと移り変わっているように感じますが、何より皆が安心して日常を送れることを願います。また落ち着きましたら宜しくお願いします。

令和2年11月16日 塩田眞一郎

運営委員の近況を掲載します

【山之内昭夫】。

令和元年5月、激しい頭痛に苦しみ、病院で「脳梗塞」と診断され2ヶ月ほど入院しました。脳内に張り巡らされた血管網の1カ所が詰まり、柿の種のように膨れていたのをレントゲン写真で見せられ納得しました。詰まりが1カ所だけだったのは、「病気の発見が早く、点滴の効果で血液がキレイになったから」と聞かされ、医師に感謝しました。その後、リハビリ専門病院に転院、社会復帰に備えました。入院中に患者同士の会話で、同病者の多いことも知り、再発のおそれのある等の教訓を得たことも収穫でした。

退院後の生活では、充分気をつけていた心算でしたが、10月頃「糖尿病」が見つかり、また入院する羽目になりました。病院の徹底した食事療法のおかげで、乱高下していた血糖値が低めで安定してきた令和2年の春に退院することができました。現在は自宅で血糖値のコントロールに努めながら、1日千歩の散歩を目標とする暮らしを送っています。11月生まれの私は、満90才。よくぞここまで生きてきたものと、周囲の協力に感謝し、迫り来る寒さと、新型コロナウイルスの蔓延から身を守るべく闘わなければと自分に言い聞かせています。

令和2年11月17日

原稿募集 事務局長の俳句です。

静寂より 寄せるさざ波 初明かり
初富士の 遮るものは 流れ雲

息災を 願い朝餉の 寒卵
川田治彦

編集後記 暗い話題が多いので、古い話で恐縮ですが、おめでたい門松造りの話にお付き合いください。

20年ほど前になりますが、当時の西宮・尼崎拠点で事務局長を務めていた山之内昭夫さん（本ページ上段記入の尼崎拠点前会長・顧問）は、とにかく器用な人で会員のために率先して何でもやる人だった。ある年の年末、門松造りをしようということになって、材料の松・竹の切り出しや土・麻縄などの材料一式を、山之内さんが調達して、作業場所は西宮市にある会員宅の広い庭を開放してもらい、数人の会員が初めての門松造りに挑戦した。講師役の山之内さん以外、私をはじめ参加した全ての人が初体験で、山之内さんの好指導の下、それぞれの自宅を飾る門松を完成させた。その際に山之内さんは、自宅用とナルク本部用を同時に作成し、後日本部に自ら運んでプレゼントした。年が明けて、近隣拠点の会員が、新年の行事で本部を訪れた際に、あまりに立派な門松が飾ってあるのにびっくりして、「こんなに高価なものをおいて」と本部に苦情を言われた。と高畑会長（当時）が苦笑していたとの話を思い出した。

一日も早くコロナが収束し、昔の日常の生活に戻ることを祈るのみである。

橋本伊三男